

2019年度「全国中学生人権作文コンテスト」岐阜県大会 優秀賞

胸を張って、自分らしく

中津川市立第二中学校2年 佐藤 めばえ

私は、小学校のときから、特別支援学級に入っています。保育園のときは、周りがさわがしかったり、大勢の人数の中にいると、うるさく感じてしまい、教室の外に出てクールダウンさせてもらう事もありました。でも、周りの人との違いは、あまり感じていませんでした。

その後、自分が聴覚過敏であると母から聞き、自分の過ごしている世界は、他の人が過ごしている世界よりもさわがしいんだと分かりました。例えば、目の前の人と話していても、少し遠くで別の話をしている人の声も、同じくらいの音量で聞こえることがよくある、といった感じです。他にも、風船が割れる音や、運動会で使うピストルの音のような衝撃音に人一倍反応して、パニックになってしまうことや、テレビの音などが大きく聞こえてしまうことがあります。聴覚過敏とは別ですが、癖で飛びはねてしまったり、他の人にとっては何でもないものを怖がったりする事もあります。周りの人にはない不便やコンプレックスがあっても、自分の良さを活かせるように、また自分が落ちついて学習、生活できるように、支援学級を選びました。

初めは、これは自分のために選んだ方法だから、これで正しいと思っていました。でも、私と同じように支援学級に入っていた上級生が、

「俺達は、支援学級に入ってるから、普通学級の人達にバカだと思われてる。」

と言っていた事がありました。その頃、まだ小学校低学年だった私は、

「は？別にそんな事ないよ。」

というくらいのことしか考えていませんでした。

その後、中学年になった時、私自身が友達に、

「めばえさんはバカでしょ。障害者だし。」

と言われた事がありました。その時は授業中でしたが、そんな事はお構いなしに、先生の所に向け寄っていき、ひどい事を言われたとしか言えずにずっと泣いていました。身近な人にそんな事を言われるとは思わず、言葉では表せないほどのショックを受けました。先生が後日その子と、じっくりと話を下さりました。私も、先生とじっくり話をしました。先生は、その時に

「人はそれぞれ、苦手な事もあれば得意な事があって当たり前。めばえさんには良い所が沢山あって、得意な事も沢山あるよ。もっと自分に自信を持って、堂々としていればいいよ。友達に言われた事は気にしないでいいよ。」

と、言って下さいました。冷静になって、先生が話して下さいた事についても一度考えました。周りの人は、特別支援学級に対して、差別的な目を持っている人もいて、正直、偏見もある。けれど私は、支援学級の仲間達と過ごす中で、仲間の良さや優しさも沢山知っている。だから、勝手な考えや思い込みで心ない事を言わないでほしい。自分をもって生まれた特性を障害というのであれば、周りの人は、障害についてもっと理解を深めるべきであると私は思います。そのような人と積極的に関わって、実際に相手のことを知ることが何よりも大切だと思います。

実際、私の周りには、支援学級を選んできた人達も、絵がものすごく上手だったり、計算がとても速かったりなど、人一倍優れた能力をもっている人が沢山います。人と関わる事が苦手だったり、他の人とは違う、独特な世界観を持っていたりする人でも、密に関わる事によって、理解し合える事もあると思います。

「障害」はなぜ、差し障りのある害と書くのでしょうか？私は、決して「害」では無いと思います。なぜなら、最近、エジソンやアインシュタインには発達障害があったかもしれないという事がわかってきているそうだからです。エジソンは電球を発明し、アインシュタインは相対性理論を唱えました。発明などの、元々なかった何かを自分で生み出すことは、他の人とは違うところに目をつける事ができなければ、思いつかないと思います。なので、元々なかったアイデアで、人々の暮らしを便利にしたり、他の人にはとても思いつかない独特なセンスのエンターテインメントが発信され、人々の心に感動を与えるためには、周りとは違う才能やセンスをもった、ちょっと変わっている人だけど、それを貫き続けた人達の活やくがあると思っています。

そのため私は、障害という言い方は何かおかしいと思っています。また、周りとは違う特性をもった人達が、もっと安心して、自分に自信を持って社会で活やくできる方法を、これから探していきたいと思っています。そして、自分にもっと自信を持って、周りと同様に活躍できるようになりたいです。